

【写真上左】中村紀葉さんの受賞作「ドルチェな日」
【写真上右】福田次子さんの受賞作「山林」
【写真下】井上邦子さんの受賞作
（いずれも本人提供）



中村紀葉さん

福田次子さん

井上邦子さん

日展特選 県内から3人

中村さん（日本画） 福田さん（洋画） 井上さん（書）

第110回目開催で、日本画、洋画、書の3部門で熊本県内から3人の作品が特選に選ばれた。東京・国立新美術館で29日まで展示される。

日本画は、熊本中央高教諭中村紀葉さん（31）＝熊本市＝の「ドルチェな日」。イタリアやスペインで出合った古いカフェがモチーフで、あえて形を絞ることで人々が過ごしてきた豊かな日常を表現した。中村さんは「うれしいが、まだ悔しながら描いている段階で正直と言いにくい。高い評価をいただき身の引き締まる思い」と話す。最優賞の文部科学大臣賞を受賞した中村貴次さん（81）とは別人。

洋画は、東光会熊本支部代表で宇城市在住の福田次子さんの「山林」。特選は今回で2回目となる。7月の熊本地震で被災し、当初準備していた作品が破損。電気こたつが出火し、食器が散乱する家の中で絵を描き、ろうそくを立てて震えながら新しいキャンバスと向き合った。描いたのは1年ほど通う山部町の秋景色。画像色。「時間がないからこそ集中することができた。とにかく必死だった」と振り返る。

書は、一東書道会副理事長、井上邦子さん（70）＝熊本市＝のかな「朝日影」。2回目の特選に選ばれた今作は、万葉集の恋の歌2首を文字の大きさを変化させながら書き、画面に必要な余白「景白」と行間の文書美を作り出した。書道は国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に近く登録される見通し。「古典に学び、唱和して創作することの繰り返し。これからもコツコツと積み上げていく」と語る。

（藤本麻里子）